

令和5年度

三重県英語教育改善プラン推進事業



# 小中連携に係る実践事例集



三重県教育委員会  
小中学校教育課

はじめに

平成29年度告示の学習指導要領から、英語を小学校の中学年では「外国語活動」、高学年では「外国語科」として学ぶようになりました。

中学校学指導要領（平成29年度告示）外国語編「3指導計画の作成と内容の取扱い（1）ウ」には、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあうなどの言語活動を行う際は・・・（中略）・・・小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。」とされています。

また、この箇所について、解説では以下のように書かれています。

中学校第1学年においては、特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、中学校への遠隔な接続を図ることが必要である。

このことをうけ、県教育委員会は、令和5年度英語教育改善プランの目標の一つを「学校種間連携の充実」とし、英語教育改善プラン推進事業を実施しました。その一環として、小中高連携チームを立ち上げ、桑名市・志摩市の2市をモデル地区に指定し、取組を進めました。

本冊子では、モデル地区での小中連携の実践事例を掲載しています。

本実践事例集を授業や地域の研修等で活用いただき、各市町、各校における円滑な異校種間の学びが一層進むことを願っています。

最後となりましたが、本事業の実施に際し、指導・助言いただきました、皇學館大学の川村先生、文教大学の阿野先生、そして、御協力いただいたすべての関係者の皆様から御礼申し上げます。

令和6年3月  
三重県教育委員会

## 〈目次〉

### はじめに

1. 英語教育における小中連携 ―小中の学びを確実につなげるために―  
皇學館大学 文学部 コミュニケーション学科 准教授 川村一代  
〔令和5年度 小中高連携チーム（志摩市）アドバイザー〕  
・・・・・・・・ 1
2. 志摩市の実践事例  
・・・・・・・・ 3
3. 三重県桑名市における小中連携の取り組みに寄せて  
文教大学 国際学部 国際理解学科 教授 阿野幸一  
〔令和5年度 小中高連携チーム（桑名市）アドバイザー〕  
・・・・・・・・ 19
4. 桑名市の実践事例  
・・・・・・・・ 21
5. Mie 英語教育小中接続・小中連携チェックリスト  
〔皇學館大学 准教授 川村一代 作成〕・・・・・・・・ 40

英語教育においては、「小中連携」が叫ばれています。そもそも「連携」とはどういうことでしょうか。広辞苑では、「同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと」と定義されています。これを「英語教育における小中連携」に当てはめると、「子どもたちの英語コミュニケーション能力向上(=同じ目的)のため、小学校教員と中学校教員が互いに連絡を取り、協力し合って物事を行うこと」となります。

では、子どもたちの英語コミュニケーション能力向上には、なぜ「小中連携」が必要なのでしょう。それは、英語は算数や数学と同じく、「積み上げ型」教科だからです。英語は、例えば、I want an apple.という表現に慣れ親しんだ後で、I want a bag for my birthday.という表現に出会うなど、前に学習したことを踏まえて次の学習が行われるので、小学校で学習したことを確実に中学校の学習につなげる「小中接続」が欠かせません。小学校と中学校の学びをつなげる「小中接続」のために、小・中の教員が連絡を取って協力し合う「小中連携」が必要なのです。

小学校と中学校の学びをつなげる「小中接続」は、それぞれの学習内容を知ることから始まります。小学校英語は2020年度に誕生した新しい教科であり、現職の先生方は小学校時代にだれも教科としての英語の授業を受けていません。それゆえ、どんな語彙や表現がいつ学習されるのか、学習の系統性を理解することが他教科以上に必要となります。では、ここで、「小中接続」がどの程度できているか、以下のチェックリストで確認してみましょう。【小学校】は小学校教員が、【中学校】は中学校教員が、【共通】は小中どちらの教員も「小中接続」のためにできることです。実際に行った(行っている)項目をチェックしてみてください。

【小学校】	【中学校】
<input type="checkbox"/> 中学年用の Let's Try! 1, 2 の児童用教材や指導書(含デジタル教材)に目を通した。 <input type="checkbox"/> 高学年用の教科書や指導書(含デジタル教科書・デジタル教材)に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学1年生の教科書や指導書(含デジタル教科書)に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学2・3年生の教科書や指導書(含デジタル教科書)に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学校へのつながりを意識した授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> ALT に中学校の授業について聞いている。	<input type="checkbox"/> 小学校中学年用の Let's Try! 1, 2 の児童用教材や指導書(含デジタル教材)に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小学校高学年用の教科書や指導書(含デジタル教科書)に目を通した。 <input type="checkbox"/> Let's Try! 1, 2 と高学年用のデジタル教材を実際に操作し、英語の音声を聞いた。 <input type="checkbox"/> 小学校高学年用教科書の語彙表や付属の絵辞書に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小学校での学習をふまえた授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> ALT に小学校の授業について聞いている。
【共通】	
<input type="checkbox"/> 学習指導要領の「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小中の CAN-DO リストに目を通した。 <input type="checkbox"/> 単元ゴールを明確にした授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> 練習と言語活動のバランスを考えた授業づくりをしている。	

上記のチェック項目は「小中接続」のため個人でもできることで、これらを行うだけでも子どもたちの英語コミュニケーション能力を向上させる授業づくりに大いに貢献します。しかし、一人の知識・経験・発想には限りがあります。実際に子どもたちを指導している小・中の英語担当者が連絡を取り合い、「小中連携」して情報交換を行えば、「小中接続」がより現実的で具体的、かつ効果的になります。以下は、校区内でできること、つまり「小中連携」の取り組みです。こちらも、すでに行っているものにチェックをしてみてください。

【共通】
<input type="checkbox"/> 小・中学校の英語担当者が顔を合わせ、英語の授業について話す機会がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> お互いのテストや教材について、情報交換する機会がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 4技能5領域について、小学校と中学校の到達目標を確認している。</li> <li><input type="checkbox"/> 小学校で使っている教室英語を中学校教員が知っている。</li> <li><input type="checkbox"/> 児童・生徒のパフォーマンス動画を見せ合っている。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 小学校で使用されている絵カード等教具や教材を中学校と共有している。 <input type="checkbox"/> 小学校で Picture Dictionary 等辞書を使っていた場合は、それを中学1年の初期に使用している。 <input type="checkbox"/> 小学校教員は中学校の、中学校教員は小学校の英語の授業を参観する機会がある。 <input type="checkbox"/> 中学校教員は、小学校で英語の授業をする機会がある。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒の英語交流行事を行っている。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒のオンライン英語交流を行っている。

「小中連携」は、「小学校教員と中学校教員が互いに連絡を取り、協力し合う」ことであるため、その体制作りは学校単位では難しく、教育委員会の主導が欠かせません。今年度、志摩市は、教育委員会主導で小中の英語担当者を対象に、小中連携に関する研修（2回）と授業参観を行いました。1回目の研修では、小中の教科書やテストを持ち寄り、KJ法を使って小中の学びの共通点と相違点、小学校ですべきことと中学校ですべきことを視覚化し、各中学校区の小中の教員が交流しました。1回目の研修で小中の学びについて理解を深めた後、小学校教員は中学校の、中学校教員は小学校の英語授業を参観しました。授業参観では、「小中の学びのつながり」「ゴール達成のための練習と言語活動」など、具体的な視点を持って授業参観できる参観シートを作成しました。2回目の研修では、参観した授業を参観の視点に従って分析し、小学校での学びを確実に中学校の学びにつなげ、子どもたちの英語コミュニケーション能力を向上させるには、小・中学校の授業では、それぞれ何を行えばよいのかが話し合われました。このように、教育委員会の主導のもと、具体的な活動を通して行われた志摩市の小中連携の研修は、高く評価できると思います。

英語で「コミュニケーション」を図れるようになるには、長年にわたる積み重ねが必要です。子どもたちが効率よく確実に学習を積み重ねていけるよう、子どもたちの英語「コミュニケーション」能力の育成という同じ目的を持った小・中の教員が連絡を取り合って「コミュニケーション」を密にすることは、英語科が英語「コミュニケーション」能力の育成を図る教科であるだけに、意義深いことだと思います。なお、文中に挙げたチェック項目は、チェックシートとして40ページに掲載しました。個人や研修等でご活用ください。

# 志摩市の実践事例

## 志摩市の英語教育に関する「小中連携」について

令和4年度までの志摩市の「小中連携」の状況〈英語教育実施状況調査から〉

- ・ 令和3年度英語教育実施状況調査の結果  
小中連携を実施した中学校区・・・・・・・・・・1校  
小中連携を実施しなかった中学校区・・・・・・・・5校
- ・ 令和3年度の調査結果を踏まえ、令和4年度は、各小中学校外国語科担当教員1名が参  
する「合同研修会」を6月に実施し、「目標の共有」「授業を見合う」「乗り入れ授業」な  
ど小中連携の具体について学んだ。
- ・ 研修参加者のアンケートから、「小中連携については、英語科担当だけではどうにもでき  
ない部分もあるので、校長会や市教委主導でやってください」という要望があり、小中  
連携の体制に改善の余地を感じた。



令和5年度、小中連携について学ぶ体制を以下のように構築していくことにした。

1. 市内各小中学校から外国語科担当教員1名悉皆参加の「小中合同研修」を実施  
(6月30日)
2. 7月～10月にかけて、外国語科担当教員は中学校区内の異校種の授業を参観
3. 志摩市立文岡中学校 1年生 公開授業(10月6日)
4. 市内各小中学校から外国語科担当教員1名悉皆参加の「小中合同研修」を実施  
(11月17日実施)

○上記のように、令和5年度、志摩市は研修会を活用した「英語教育における小中連携」を  
取り組むことにした。

○令和5年度の研修の具体的な取組について、以下に詳細を記載する。

1. 小中学校合同研修会（第1回）〔6月30日（金）〕について

【対象】市内各小学校・中学校より代表1名

【内容】

①講義研修 「外国語科における小中連携について」

講師：皇學館大学 川村 一代 准教授

②ワークショップ形式(KJ法)によるグループ協議

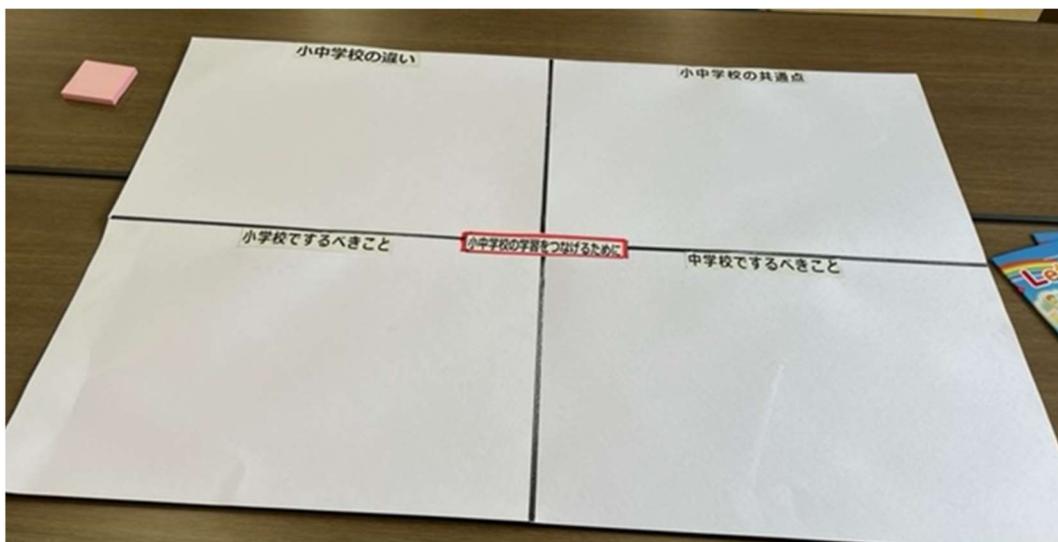
→各中学校区でグループを組み、各校種の教科書やテストを参考にし、小中の共通点と相違点を模造紙にまとめ、全体交流する

③今後の授業参観の予定計画

→7月～10月にかけて、中学校区の異校種の授業を参観するため、年間行事予定を参照して、授業参観の予定を組む。また、授業参観する際には、以下の参観シートを記入する。終了後、市教委へ提出する。(参観シートについては、〇ページを参照)

〔②ワークショップ形式（KJ法）の模造紙について〕

小中学校の違い	小中学校の共通点
小中学校の学習をつなげるために	
小学校ですべきこと	中学校ですべきこと



(研修参加者による KJ 法から)

同じ中学校区の小学校と中学校の教師で、互いの教科書や実施したテストを見ながら、以下のように協議しました。

小・中の教科書や1学期に実施したテストを見ながら、小中学校の違いについてまとめました。

小中学校の違い

小中学校の共通点

- ・コミュニケーションを大切にしている
- ・場面設定の大切さ
- ・自分のことを伝える活動

などの意見が出ました。

小学校ですべきこと

小中学校の学習をつなげるために

中学校ですべきこと

- ・英語で話すことを楽しむ
- ・英語の音に親しむ
- ・リスニングの力
- ・アルファベットの指導
- ・ヘボン式のローマ字

などの意見が出ました。

- ・文字指導(音と文字をつなげる)
- ・即興性のある「やり取り」の育成
- ・小学校でどこまでやってあるかを知る

などの意見が出ました。

③の授業参観で活用した「参観シート」

令和5年度 志摩市 英語研修 小中学校連携 授業参観シート	
記入者、	、
参観日、	年 月 日( ) 限目、
参観授業、	学校 年 授業者、
単 元、	、
Today's goal、 (めあて)、	、
① Goal 達成のための練習の内容 (言語材料について理解したり練習したりする活動)、	
、	
、	
、	
② Goal 達成のための言語活動の内容 (英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動)、	
、	
、	
、	
、	
③ 中学校教員：中学校で指導することとのつながり、	
小学校教員：小学校で指導したこととのつながり、	
、	
、	
、	
、	
、	
③ 授業で学んだこと、	
、	
、	
、	
、	
、	
、	
、	
④ 授業者へのメッセージ、	
、	
、	
、	
、	
、	
、	
、	
、	

## 中学校外国語科指導案

日時:令和5年10月6日(金)第5校時

場所:文岡中学校 1年

### 1. 単元名 Lesson4 My Family, My Hometown (NEW CROWN:三省堂)

### 2. 単元目標

- ・三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解し, 第三者や物について表現できる  
【知識及び技能】
- ・イギリスについて調べた内容をまとめ, 理由や根拠を交えながら発表することができる  
【思考力, 判断力, 表現力等】
- ・イギリスについて調べた内容をまとめ, 理由や根拠を交えながら発表しようとする  
【学びに向かう力, 人間性等】

### 3. 単元設定の理由

#### (1) 単元について

本単元は, イギリス出身のブラウン先生の家族の紹介文やブラウン先生が書いたイギリスについて(ロンドン・エジンバラ)の記事を読むことで, 三人称単数現在形の知識を習得すること, イギリスについての理解を深めること, イギリスについて調べまとめたことを発表すること, English Camp の申込書に書いた情報をもとに自分の好きなスポーツや食べ物などを話すことを目指す単元である。イギリスは英語の発祥地であり, 異なる地域や民族からの影響を受け, 多様な文化が共存していることにも触れたい。

#### (2) 指導について

本単元の第1時・第2時では, 志摩市内の小中学校が取り組んだ「G7 交通大臣会合に向けた折り鶴プロジェクト」を通して, 本校担当国であるイギリスの駐日大使館(貿易カウンセラー: マリークレール・ジョイスさん)より届いた手紙や指導者作成のパワーポイント資料を使って, イギリスに目を向ける授業を行う。第3時から第9時では, 教科書(デジタル教科書含む)を使い, 三人称単数現在形について理解し演習を行うとともに, キャビー(タクシードライバーの通称)やエリザベスタワー(ビッグ・ベン), ロンドン, エジンバラ, バグパイプやキルト衣装などイギリスについての理解も深めていく。第10時・第11時では, それ

までに湧き出たイギリスへの関心や得た知識をもとに、イギリスについてのプレゼンテーション資料をグループで作る。プレゼンテーションのトピックは自分たちの興味・関心をもとに決めさせる。そして、聞き手の興味を惹くことができるプレゼンテーション資料を自由に作らせた。

[生徒の発話例(グループ発表)] :B 評価

S1: We will introduce about the U.K.'s food.

First, The U.K. has 'Fish and Chips'. It is very famous. We ate it in school lunch.

S2: Second, The U.K. has 'Porridge'. 'Porridge' is 'oatmeal' in Japanese.

The British eat 'Porridge' with milk for breakfast.

S3: Third, The U.K. has 'Roast-beef'. You know about it. The British often eat 'Roast-beef' on Sunday.

S4: Forth, The U.K. has 'Scotch egg'. Scotch egg is like hamburger stake with boiled egg. The British eat it with alcohol.

The U.K. has a lot of delicious food. If you go to the U.K., please try them! Thank you for listening.

#### 4. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(発表) 話すこと	三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解し、第三者や物について表現している	イギリスについて調べた内容をまとめ、理由や根拠を交えながら発表している	イギリスについて調べた内容をまとめ、理由や根拠を交えながら発表しようとしている

5. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標(第1学年)

聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと
	簡単な記事を読んで、その大まかな内容を読み取ることができる		調べた内容をまとめ、理由や根拠を交えながらまとまりのある内容を発表することができる	

6. 小学校外国語活動・外国語科を踏まえた指導の工夫

(1) 関連する活動

外国語活動・外国語科を通じて、日本の遊びや年中行事など日本に関する事柄を紹介する活動を行っている。また、Unit8 では、「～したい」の表現を学んでいる。

(2) 関連する言語材料

[New Horizon 6]

Unit3 Italy is a nice country. You can see the Colosseum. (序論・助動詞)

Unit8 I want to enjoy sports day. (～したい[不定詞])

7. 単元指導計画(全 12 時間)

時	目標◆・活動○	評価(○:形成的評価 ◎総括的評価)			
		知 技	思判 表	態 度	評価規準<評価方法>
1	◆イギリスとはどんな国か知ろう ○Small Talk ○指導者作成 PP を見る ○British Embassy からの手紙の内容理解(個人/グループ)				
2	◆British Embassy からの手紙について考えよう ○Small Talk ○British Embassy からの手紙の内容交流 ○British Embassy からの手紙の内容解説 ○日本と海外の手紙の書き方の違い ○British Embassy へ返事を書く		○ (書)	○ (書)	□Ms. Joyce への手紙の返事 (思)Ms. Joyce からの手紙を読んで感じたこと、届けたい思いなど、自分の気持ちや考えを表すことができるか。 (主)Ms. Joyce からの手紙の意図をくみ取り、自分の気持ちや考えを表そうとしてい

					るか。
3	<p>◆イギリスについて知っていることを増やそう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> <li>○教科書 P.69 の扉絵</li> <li>○デジタル教科書の動画を観る</li> <li>○単元目標の設定</li> <li>○教科書 P.70 の音読</li> <li>○教科書 P.70 の音読練習</li> </ul>				
4	<p>◆ブラウン先生の家族について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> <li>○教科書 P.70 の音読・音読練習</li> <li>○教科書 P.70 の内容理解</li> <li>○教科書 P.71 Listen</li> </ul>				
5	<p>◆ブラウン先生の弟についてくわしく知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> <li>○教科書 P.72 の音読・音読練習</li> <li>○教科書 P.72 の内容理解(L)</li> <li>○教科書 P.73 Listen</li> </ul>				
6	<p>◆三単現についてくわしく知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> <li>○Retelling</li> <li>○三単現について動画視聴</li> <li>○Writing Practice</li> </ul>	○ (書)			<input type="checkbox"/> ライティングノート (知)これまでに学んだ三人称単数現在形を使って正しく英文を書くことができるか。
7	<p>◆三単現を使って文を作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> <li>○教科書 P.70 の内容理解(精読)</li> <li>○教科書 P.72 の内容理解(精読)</li> <li>○Writing Practice</li> <li>○教科書 P.70,72 の音読練習</li> </ul>	○ (書)			<input type="checkbox"/> ワークシート(教科書教材) (知)これまでに学んだ三人称単数現在形を正しく使って、求められていることに答えられているか。
8	<p>◆ブラウン先生のお気に入りの場所について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Small Talk</li> </ul>		○ (読)	○ (読)	<input type="checkbox"/> 教科書本文 (思)ロンドンとエジンバラについて書かれた記事を読ん

	○教科書 P.74-75 のリスニング ○教科書 P.74-75 の内容理解				で、概要を捉えられているか。 (主)ロンドンとエジンバラについて書かれた記事を読んで概要を捉えようとしているか。
9	◆ロンドンとエジンバラの良いところを知ろう ○Small Talk ○教科書 P.74-75 のリスニング ○教科書 P.74-75 の音読 ○教科書 P.74-75 の内容理解 (教科書の問題をもとに)				
10	◆イギリスの魅力を伝えられるプレゼンの資料や原稿を作ろう			○ (書)	□プレゼンテーションのスライド □プレゼンテーションの原稿 (主)イギリスについて、自分の興味・関心をもとに、相手を惹きこむスライド・原稿を作ろうとしているか。
11	◆イギリスの魅力を伝えられるようにプレゼンの練習をしよう			○ (書)	□プレゼンテーションのスライド □プレゼンテーションの原稿 (主)イギリスについて作ったスライドや原稿をもとに、魅力がうまく伝わるようにプレゼンテーションの練習ができているか。
★ 12	◆仲間と協力してイギリスの魅力を伝えることができる  ○Small Talk ○評価の観点のおさらい ○プレゼンテーション ○フィードバック	◎ (話 ・ 発)	◎ (話 ・ 発)	◎ (話 ・ 発)	□プレゼンテーション (知)三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 (思)イギリスについて調べた内容をまとめ、理由や根拠を交えながら発表することができる。

					(主)イギリスについて調べた内容をまとめ、理由や根拠を交えながら発表しようとする。
--	--	--	--	--	---

## 8. 本時の指導(12/12)

○目標:仲間と協力してイギリスの魅力を伝えることができる

○本時の指導(50分)

時間	生徒の活動 【】=紙面化されている活動	指導者の活動(と使用英語例) ◎評価(方法)	準備物
導入	○Greeting ○Warm-Up Question	○OutlineとToday's Goalをプロップスを用いて提示しておく ○英語であいさつをする。 ○英語で曜日、日付、天気、時刻を確認する。	・プロップス
展開	○Small talk  ○プレゼンテーションのルールの確認  ○プレゼンテーション発表  ○ベストプレゼンテーションの選	○話しやすいトピックを提示する。 ○机間巡視しながら、トークが滞っているペアや早くに話し終えているペアのところへ行き、質問をして会話を促す。 ※指導者がペアのいない生徒のペアになることもある。 (○中間指導として、何人かをネームカードで当てて質問していく。) ○話す側の態度(アイコンタクト・ジェスチャー・話すスピードなど)と聞く側の態度(Conversation Strategy・うなずきなど)の確認をする。 ◎【思・判・表】【主学態】:プレゼンテーションを観て評価基準をもとに評価する。	・大型ディスプレイ         ・評価用紙

	考 ○ベストプレゼンテーションの発表		
まとめ	○ふりかえりシートに入力する	○タブレット上でふりかえりを記入させる。	

## 9.板書計画

<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Friday</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">October 6<sup>th</sup></span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">weather</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">time</span> </div> <p><b>Today's goal</b> Let's tell the charm of the U.K. with your friends!</p> <p><b>Outline</b> Greeting Warm-up Q Small Talk Presentation Reflection Sheet</p>
---

## 10. プレゼンテーションのルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	ほとんど誤りのない単語の発音やアクセント、三人称単数現在形を用いて、第三者や物について表現することができる	イギリスについて調べまとめた内容を、理由や根拠を交えて、わかりやすく話そうとしている	聞き手に「イギリスにより興味を持つことができた」と思ってもらえるように、積極的に、自分の考えを伝えようとしている
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の単語の発音やアクセント、三人称単数現在形を用いて、第三者や物について表現することができる	イギリスについて調べまとめた内容を、話そうとしている	聞き手にイギリスについてまとめたことを伝えようとしている
C	Bに満たないもの	Bに満たないもの	Bに満たないもの

4. 小中学校合同研修会（第2回）の実施〔11月17日（金）〕について

【対象】 志摩市内各小・中学校より代表1名

【内容】

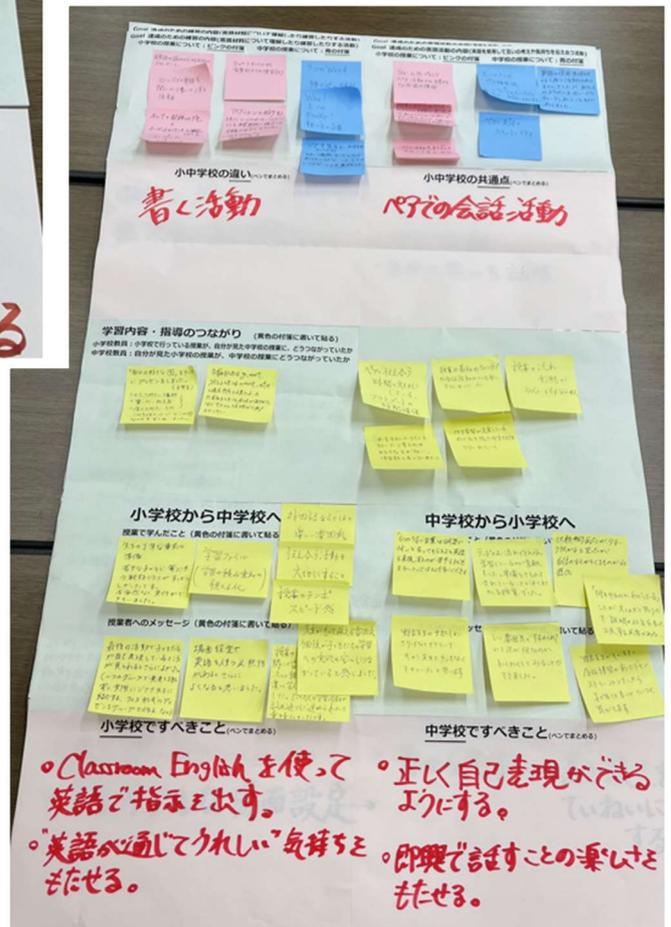
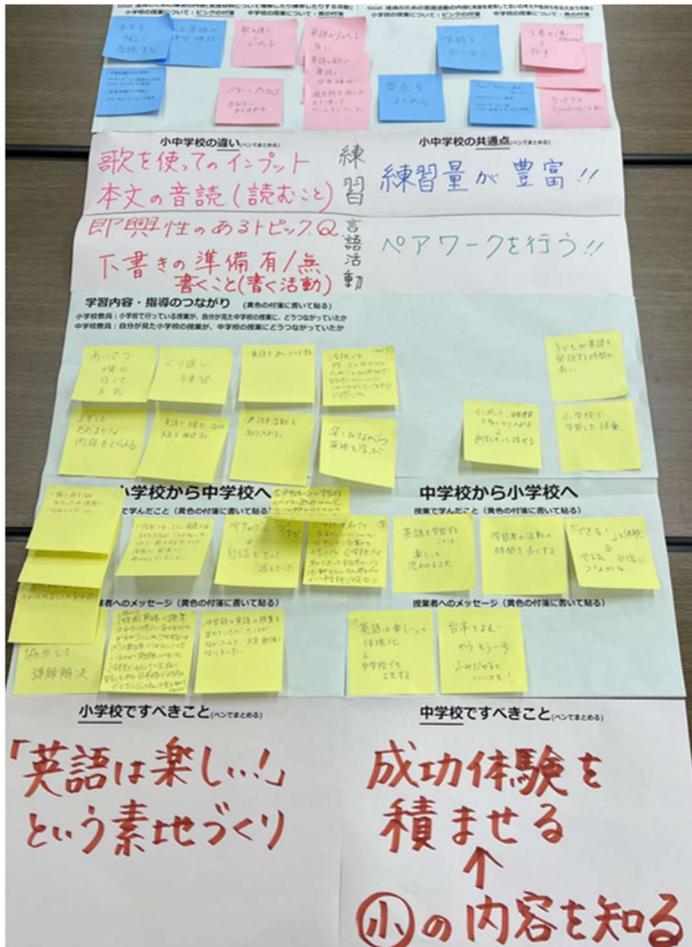
- ①ワークショップ形式によるグループ協議
  - ・各中学校区でグループを組み、授業参観の際に記入した「参観シート」を見ながら、小中連携のポイントを付箋に記入し、模造紙にKJ法的に項目ごとにまとめ、全体交流する
- ②10月の文岡中学校の公開授業の還流
- ③講評 皇學館大学 川村 一代 准教授



①ワークショップで使用したKJ法の模造紙について

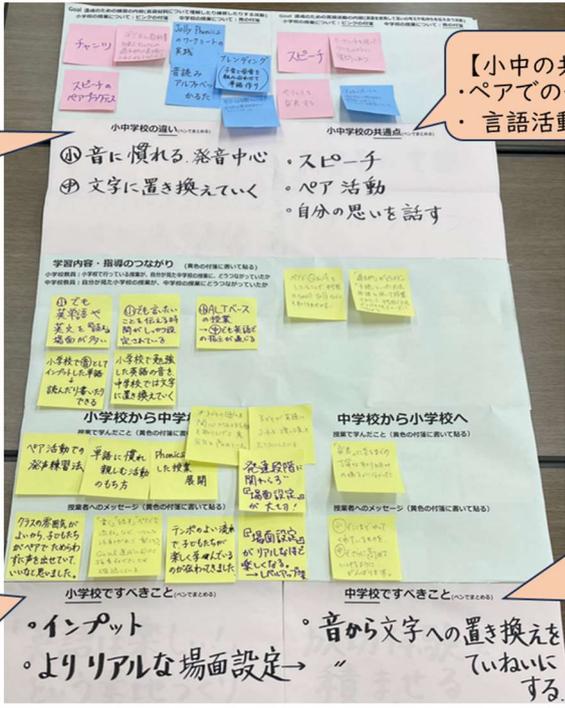
Goal 達成のための練習の内容(言語材料について理解したり練習したりする活動) 付箋貼る	Goal 達成のための言語活動の内容(英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動) 付箋貼る
小中学校の違い ペンでまとめる	小中学校の共通点 ペンでまとめる
学習内容・指導のつながり 小学校教員:小学校で行っている授業が、自分が見た中学校の授業に、どうつながっていたか 中学校教員:自分が見た小学校の授業が、中学校の授業にどうつながっていたか 付箋貼る	
小学校から中学校へ 授業で学んだこと 付箋貼る 授業者へのメッセージ 付箋貼る	中学校から小学校へ 授業で学んだこと 付箋貼る 授業者へのメッセージ 付箋貼る
小学校ですべきこと ペンでまとめる	中学校ですべきこと ペンでまとめる

(参加者が作成した KJ 法の例)



【小中の違い】  
 ・書くこと  
 ・読むこと  
 ・即興的な「やり取り」

【小中の共通点】  
 ・ペアでの会話活動  
 ・言語活動



【小学校ですべきこと】  
 ・「英語は楽しい」という素地づくり  
 ・(できる限り)クラスルーム Englishを使って指示をだす  
 ・「英語が通じて嬉しい」気持ちをもたせる

【中学校ですべきこと】  
 ・小学校の内容を知る  
 ・より正確に自己表現ができるようにする。  
 ・即興で話すことの楽しさをもたせる

研修参加者のアンケートから

(参加者感想)

- ・小中連携の大切さが具体的に理解できた。(小学校)
- ・中学校の授業を見たことがなく、小中連携という視点をもっていなかったのので、その視点をもつことで、ものの見方やつける力が明確になりました。日常的に英語を使っていきたい。(小学校)
- ・小・中で顔を合わせ、テキストなどについて話し合う機会があるだけでありがたいと思った。(中学校)
- ・小学校の授業を参観できる機会があったので、とても勉強になることが多かった。今後も小学校の授業を見に行きたいし、見に来てほしい。(中学校)
- ・お互い授業を見せ合うことで、継続した活動を確認することができたので、中学校ではさらにレベルアップさせてやれるといいと思いました。(中学校)
- ・小学校英語が以前よりも進化していることを予想はしていたが、実際に小学校の先生と一緒に研修を重ねることで、実感として分かった。中学校でも、もっとできることがあると改めて思った。(中学校)

(令和5年度「小中連携」に係る研修内容で役に立ったと回答した人数)

- ・小中学校教員の合同の研修 . . . . . 8人
- ・小中の教科書やテスト、問題集等の比較 . . . . . 2人
- ・KJ法による話し合い . . . . . 4人
- ・小中学校それぞれの授業参観 . . . . . 11人
- ・授業参観の振り返り研修 . . . . . 6人

令和5年度 志摩市英語教育における「小中連携」の成果と課題について

○令和5年度英語教育実施状況調査結果から

- ・小中連携を実施した中学校地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・100%
  - (情報交換)・・・・・・・・・・・・・・・・・・100%
  - (交流)・・・・・・・・・・・・・・・・・・100%
- (小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定)・・・・・・0%

(成果)

合同の研修会や授業参観を経たことから、連携を実施した中学校区が100%、「情報交換」「交流」共に100%となった。2回の小中合同の研修会、互いの授業参観を実施したことで、異校種の学習内容・指導法等について理解を深めることができただけでなく、同じ中学校区の小・中の心理的な距離も近づけることができた。その結果、小・中の教員の互いの存在が身近なものとなり、今後の各中学校区が自走する小中連携の取組に向けて、大きな後押しとなったと思われる。

(課題)

英語教育実施状況調査の結果にもあるように、同じ中学校の小・中の教員が一緒になって、それぞれの発達段階にあった系統だった目標を設定できていないことである。よって、志摩市教育委員会は令和6年度、中学校区ごとの「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を作成する予定である。今後は、教育委員会が主導する「小中連携」の体制から、少しずつ、各中学校区が主体的に交流を継続することをめざしていく必要がある。

小学校で外国語活動が開始されて以降、小学校と中学校の英語指導における連携の必要性が議論され、さらに小学校5・6年生で外国語科として教科化されたことにより、中学校全ての英語科教員の英語授業に対しての意識改革が求められています。三重県においても、様々な研修会で小中の教員が一緒に受講する講座が開かれるなど、ここ数年で大きな前進がみられています。小学校での4年間の外国語指導と中学校での3年間の英語指導を通して、英語が好きな児童・生徒、英語で思いを伝えることができる児童・生徒を育てていくという意識は、確実に先生方の授業の中にみられるようになってきました。

その一方、日常の多忙な業務の中で、異なる校種の教科書を研究したり、お互いの授業を参観して議論をしたりするといった具体的な取り組みは、なかなか実現できていない現状があります。小学校教員と中学校教員が集まるある研修会で、中学校区ごとに着席していただき、それぞれの授業でどのような言語活動を行っているかの情報交換をしていただいたことがあります。小学校でも中学校でも扱う can を学習する単元、過去形を学ぶ単元、そして want to を使った活動を行う単元について、具体的な単元末活動を紹介し合うという研修です。すると、どのグループからも「え、小学校ではそんなことまでやっているのですか?」「中学校でも小学校と同じことをしているんですね」など、新しい発見、そして驚きの声が上がっていました。同じ子供たちが小学校から中学校へと進学してくるため、教室内で小学校と中学校でのそれぞれの学びを把握していないのは、実は教員だけということにもなりかねません。

ではどのように小中連携を図っていったらいいのでしょうか?その具体的な取り組み事例が、「三重県英語教育改善プラン」に係る桑名市の「令和5年度小中高連携チーム会議」です。令和8年度の桑名市立多度小中一貫校(義務教育学校)開設に向けて、同一学区内の多度中小学校と多度中学校が連携を図り、三重県教育委員会と桑名市教育委員会とともに一丸となって取り組んでいます。私もチームの一員に加えていただけたことで、その一年間の取り組みから、小中連携を図るヒントを得ることができると思っています。

スタートは5月のチーム会議でした。同一学校区とはいえ、毎日の授業を行う中で、小学校と中学校の教員が場所を移動して情報交換を行う時間を取るのには簡単なことではありませんし、まして、指導主事や外部機関との連携を図って一堂に集まることも難しいと思います。そこで活用できるのが Web 会議システムです。最初は放課後の時間を利用した1時間程度のものでしたが、中学校の各学年担当の3名の先生と、小学校専科として指導されている先生のお顔を拝見しながらやり取りをすることができたことで、それぞれの先生方が抱える課題等を共有することができ、これからどのような観点でチームでの取り組みを行ったらいいかの方向付けを行うことができました。コロナ禍によって普及した Web 会議が、空間を超えて行えることは、こうした連携を図る上でのきっかけ作りになります。

しかし、Web 会議で欠けてしまうのは、そこに子供の姿が見えないことです。実際に教室で子供がどのように学び、英語を使っているのかを観察することは何にもまして大切なことです。そこで7月には、朝から夕方までの1日を使って、小学校と中学校を移動して両方の授業を一緒に参観するという研修会が行われました。私自身、これまで数多くの研究授業を拝見してきましたが、講師として1日に4つの授業を拝見したのは今回が初めてでした。1時間目に小学校で6年生の授業を参観した後、2時間目の時間を使って中学校へ移動、その後、3時間目に3年生、4時間目に1年生、6時間目に2年生の授業を参観し、放課後に4つの授業についての協議を行いました。複数の日に渡って学校を離れることは難しいですが、1日の出張はあると思います。1日に集中させて子供たちの成長の姿を見ることで、どのように英語の学びをつないでいったらいいかのイメージを持つことができました。この時点で、初めて小学校の授業を見たという中学校の先生もいらっしやり、大きな一歩を踏み出せたと思います。もちろん校務の関係で一部の授業を見ることができなかった先生もいらっしやいますが、授業を録画しておき、それを後日視聴することで、チームとしての研修の継続を可能にしています。

その後、それぞれの学校で小中連携を見据えた授業改善を行い、12月には1週目に多度中小学校で、2週目には多度中学校で公開授業と研究協議を行い、桑名市内の小学校と中学校の先生方に小中連携の具体的な形を見ていただくとともに、私の方からも小中連携に当たっての英語指導の留意点等についてお話をさせていただきました。

そして、小中連携のポイントとして桑名市では small talk に焦点を当てています。連携のためにはいくつもの大切な要素がありますが、具体的にこうした言語活動に焦点を当てて進めていくことは、指導に具体性を持たせるためにも大変有効なことです。小学校では自分たちの身近な話題について、相手の話に適切に相槌を打つことで興味を示したり、You で始まる応答をすることで、相手が話した内容を繰り返したりして確認するなどの指導を行っています。中学校では、こうした指導を引き継ぎながら、中学校で使えるようになる言語材料を用いながら、より詳しく自分の気持ちや考えを伝えることができるようになっていきます。つまり、リレーに例えるなら、small talk がバトンになって英語の学びをつないでいきます。実際に12月の授業を参観させていただいた際にも、6年生の児童が“*What did you eat for dinner?*”というトピックについて生き生きと英語を使って伝え合っている姿が印象的でした。夕食について話すだけではもの足らず、ランチについて話し始める児童もいました。翌週の中学校1年生の授業では、過去形の学習の中で“*What did you eat for dinner yesterday?*”について、小学校での学びをつないで、より多くの情報を英語で表現をすることに加え、“*It was delicious.*”“*I was happy.*”など、自分の気持ちを加えてやり取りをする姿が見られました。

小学校では英語で伝え合う楽しさを知り、もっと伝えたいという気持ちをもって中学校に進みます。中学校ではその気持ちを大切に、たくさん伝えられるようになったという達成感を得られる、そんな小中の連携を目指していただくことを願っております。

# 桑名市の実践事例

## 桑名市多度中学校区について

### ○令和5年度の外国語科の環境について

- ・多度地区の4つの小学校では、専科教員が巡回して5・6年生の外国語科を指導
- ・中学校では3人の外国語科の教員が指導

### ○令和8年度に義務教育学校「多度学園」開校予定

- ・多度学園・・・4つの小学校と1つの中学校が統合した9年間の義務教育学校

### ○多度中学校区の実践から、市内全体で取り組む小中一貫教育に基づいた英語教育の更なる推進



今後の義務教育学校設立に向け、多度中学校区として、外国語科としての5年間の系統だった指導法（Small Talk を重点的なテーマとした）を確立するため、以下のように小中連携の取組を進めた。

1. 遠隔（Zoom）にて、令和5年度多度中学校区の小中連携の取組について協議（5月8日）
2. 中学校区の異校種の授業参観（7月10日）〔阿野先生 助言〕
3. 夏季休暇中に1学期の実践と今後の予定を交流
  - ・1学期のパフォーマンステスト、Small Talk、評価等についての情報交換
  - ・2学期、3学期の指導計画についても情報交換
4. 多度中学校区の取組みを桑名市内に還元するため、公開授業を設定〔阿野先生 助言〕
  - ①多度中小学校6年生公開授業（12月4日）
  - ②多度中学校1年生公開授業（12月11日）
5. 多度中学校の取組みを小中学校英語担当者会で還流（2月22日）
6. Google クラウドルームを活用して、情報共有・資料の送付
7. 中学校1年生は、小学校の教科書資料を持参し、授業で活用（NEW HORIZON Elementary、Picture Dictionary）
8. 小学校教員は中学校の教科書/中学校教員は小学校の教科書を読み、指導に生かす
9. Small Talk の小学校の取組を中学校で継続・発展（反応、あいづち、質問等）
10. ①Small Talk 指導上の共通事項（多度中学校ブロック）
  - ②Small Talk で目指す姿（多度中学校ブロック）

#### 4. ①多度中小学校公開授業について

## 小学校外国語科指導案

日時： 令和 5 年12月4日(月)第5校時

場所： イングリッシュルーム

児童： 6年 A 組 38名

### 1. 単元名 Check Your Steps2

(NEW HORIZON Elementary English Course 6 :東京書籍)

### 2. 単元目標

世界と自分のつながりを紹介するために、持ち物や食べ物などについて、話すことができる。

### 3. 単元設定の理由

#### (1) 単元について

本単元は、Unit 4から Unit 6のまとめの単元であり、「世界と日本のつながりを考えること」がテーマとなっている。Unit 5と Unit 6 では、これまでの内容から深めて、英語を通してこのテーマについて学ぶ内容言語統合学習を扱っている。

Unit 4では、夏休みの思い出を簡単な過去形を使って紹介したり、世界の夏休みについて考えたりしてきた。Unit 5では、食物連鎖や環境について考え、語順に注意しながら発表したり、Unit 6 では、身の回りのものや食べ物を通して、自分と世界がつながっていることに気づき、発表したりしてきた。

これらの単元を通して、世界とのつながりを考え、社会や世界に目を向けることを大切にしてきた。また、これらの学習活動を通して、相手が理解しやすいように、ジェスチャーや間の取り方、話し方などにも気を配って練習してきた。また、聞き手はうなずいたり相槌をうったりして能動的に聞くということも学んできた。

学習してきたそれらの表現を使って、自分と世界とのつながりを見つけて発表する。また、発表を聞く際には、うなずいたり返事のかえしたりして、聞いているということが伝わるような聞き方を心がける。

#### (2) 指導について

2学期のまとめである本単元では、既習の表現を使って、どうやって表現すれば多くの情報を伝えられるかを考え発表することを最終目標として、これまでの単元で学習した表現をチャンツ等で振り返りながら自分と世界とのつながりを伝えるために使える表現を考えさせる。

スピーチでは、考えた文言を話すだけでなく、映像やジェスチャーなどを視覚的に訴える手段を取り入れることで、相手に伝わる情報量が増えることなど、発表を通してコミュニケーション力をつけることにも取り組みたい。

第1時では、授業者によるモデルを見せたり、単元末の活動の様子の映像を視聴したりすることで、単元末に行う世界と自分のつながりを発見して紹介しようの発表のためにどんなことが言えるようになるか、とよいかを考えさせ、ゴールの姿を児童に具体的にイメージさせたい。また、自分の持ち物や身に付けているもの、Unit6で調べた輸入食材などを調べ、自分が世界と色々な形でつながっていることに気づかせたい。その際、既習のどんな表現を使って伝えることが出来るかを考えさせるようにする。また

第2時では、第1時で考えた発表したいものに関わるエピソードを考える。ここでも、既習の表現を振り返りながら、発表する内容を考えるようにする。そのために写真や実物が準備出来る場合は、それらをどう発表の場面で生かしていくかも考えるようにする。実際の発表をイメージしながら各自で発表の練習を行う。

第3・4時では、前時で作成した原稿をもとに、世界と自分のつながりを発表する。1学期から継続して取り組んでいるなかで気づいたこと(声の大きさやスピード、表情やジェスチャーなど)を意識して発表できるようにする。また、発表を聞きながらリアクションしたり質問をしてみる等の声かけもしておく。

本単元は、Unit 4 から Unit 6 のまとまりの単元であるため、これらの単元を通して何ができるようになったか、そのためにどのように取り組んできたかを振り返りシートに記入し、今後につなげていく。

[児童の発話例](下線部は全員がめざす発話(=b評価))  
 例)Hello, everyone. I'm Aoi. This is my sweater. I like this sweater.  
 My sweater is from Norway. I ate salmon from Norway. I want to go to Norway.  
Thank you for listening.

#### 4. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話す こ と 【発 表】	〈知識〉[Unit 4～6で学習した表現やその関連語句など]について、理解している。〈技術〉持ち物や食べ物などについて、[同上]を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	世界と自分のつながりを紹介するために、持ち物や食べ物などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。	世界と自分のつながりを紹介するために、持ち物や食べ物などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

【Unit 4】 I want to ～. I enjoyed ～. I ate ～. It was ～.

【Unit 5】 Where do ～ live? ～ live … . What do ～ eat? ～eat….

【Unit 6】 I ate ~ last night. I usually eat ~ . ~ is from … . ~ is in the red group.

5. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標(第6学年)

聞くこと	読むこと	話すこと【やり取り】	話すこと【発表】	書くこと
/	/	/	世界と自分のつながりを発見して紹介することができる。	/

6. 中学校外国語を踏まえた指導の工夫

(1) 関連する活動

Unit 4～6 では、世の中で起きている事実などを伝えたり、自分の経験や気持ちを伝えたりする活動を行っている。また、本単元は、自分の身の回りのものから世界と自分のつながりを考えるきっかけになっている。このことは、中学校において、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりの内容を話す活動につながっていく。

【Small Talk について】

多度中学校ブロックでは、小・中学校でSmall Talkに取り組んでいる。5年生では、自分自身や家庭、学校等の身近な話題について、“Really?”や“ Oh, I see.”などの会話を続ける基本的な表現を用いながら、自分の考えや気持ち等について教師と英語で話すことを主に行っている。

6年生では、身近な話題について、相手の子が言ったことに対し、Youで繰り返して話の内容を確かめることや、How about you?でたずねるなどして、子ども同士のやり取りができるよう取り組んでいる。

(2) 関連する言語材料 中学校使用教科書: Here We Go! (光村図書)

言語材料については、習慣を表す現在形、したことを表す過去形を対比させながら、中学校での時制の学習につながっていく部分となっている。

【Here We Go! 1】

Unit 1 I like spring.

Unit 3 I want to get that blue one.

Unit 7 I went to a temple on New Year’s Eve.

It was fun.

6. 単元指導計画(全4時間)

時	目標◆・活動○	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準<評価方法>
1	◆世界と自分のつながりに気づきスピーチを考 えることができる。				
	○song Unit 6 ～産を意識して ○chant ○small talk(This is my ～.It's from ～.) ○words(国・衣類) ○身の回りのどんなものが世界とつながっている か考える。 ○モデルスピーチを見る。 ○ロイロノートのウェビングを使って、モデルスピー チのメモを作る。 ○自分が紹介(発表)するものを決めて、どこ産の ものか調べる。 →ウェビングを使って自分のメモを作る ○メモをもとにして、ペアで即興で話したり質問し たりする。 ○スピーチを考える。 This is my ～. It is from ～.				記録に残す評価は行わな いが、目標に向けて指導を 行う。児童の学習状況を記 録に残さない活動において も、教師が児童の学習状況 を確認する。
2 本時	◆世界と自分のつながりを紹介するスピーチをよ りよく改善する。				
	○song Unit 4 過去形を意識して ○ small talk ( What did you eat yesterday? I want to ～. I eat ～.) ○chant Unit 6 ○スピーチを考える。 This is my ～. It is from ～. I like ～. ○自分が紹介(発表)するものの産地に関する説 明や感想をメモにつけ足す。(ロイロノート) ○メモをもとにして、ペアで即興で話したり質問し たりする。 ○スピーチを考える。				

	○発表に向けてポスターを作る。 ○スピーチの仕方を確認する。				
3	◆世界と自分のつながりを紹介するスピーチをすることができる。				
4	○各自でスピーチの練習をする。 ○発表 ○リアクション・質問 ○ふり返し(自己評価)をする。	○	○	○	ループリック参照

## 7. 言語材料

[既出]果物・野菜、食材、国、衣類

## 8. 本時の指導(2/4)

○目標

世界と自分のつながりを紹介するスピーチをよりよく改善することができる。

○本時の指導計画(45分)

時間	児童の活動 【 】=誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価(方法)		準備物
		英語専科教員	JTE	
	1・挨拶  2・【Let's sing】(2分) We love summer vacation.  3・【Small Talk】(12分) T: I ate tonjiru for dinner yesterday. It was great. What did you eat for dinner? J: I ate _____ for dinner. T: Oh, you ate _____. I like _____, too.  ・ペアでやり取りをする。 <u>中間交流</u> 言えなかった表現の言い換えを考えさせる	天気・曜日・日付を確認する           JTEとデモンストレーションをする。    What did you eat for dinner? Let's talk in pairs. Let's start!	天気・曜日・日付を確認する           教師とデモをする。           ランダムに児童に質問しながら活動の様子を見まわ	

<p>・やり取り2回目(ペアを変えて同じトピックで)</p> <p>・【Today's goal】(2分) 世界と自分のつながりを紹介するスピーチをよりよく改善することができる。</p> <p>・【My goal】(2分) よりよく改善するために何をしたいかをノートに書く。</p> <p>・【前時の復習】(3分) ・ウェビングにひと言つけ足しをいくつか考えてつけ足す。 ・日本語でも日本語でも可。メモ程度で良い。</p> <p>・【即興練習】(8分) ・即興でメモをもとにペアでフリートークをする。 I like ○○. Do you like ○○? I want to ○○. Where did you buy ○○? I went to ○○.</p> <p>・【ポスター作り】(13分) ・発表に向けてのポスターを準備する。 (ロイロノートを使って)</p> <p>・【振り返り】(3分)</p>	<p>机間指導しながら困った児童がいたら声をかけたりに一緒に参加したりする。</p> <p>前時の活動を振り返り、本時の見通しを持たせる。</p> <p>リアクションや、質問もどんどん出来ると良いことを伝える。</p> <p>ポスター作りややり取りで困ったことや役に立ったことを出し合い、全体で共有する。</p>	<p>る。 (隣がいない児童がいたらペアの相手をする。)</p> <p>児童の即興の英語に対して、Where is it from? や、Do you like it? などの質問をする。</p>	<p>iPad</p>
--	--	--	-------------

9. 板書計画

Today's goal	世界と自分のつながりを紹介するスピーチをよりよく改善する。	December 4 <sup>th</sup>
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: left;"> <p>中国製</p> <p>from ○○</p> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: right;"> <p>めっちゃ温かい</p> <p>It's very warm.</p> </div> </div>	Monday	
<p>お気に入り</p> <p>I like it.</p> <p>This is my favorite.</p>	<p>ポスター作りでの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を入れたらわかりやすくなった</li> <li>・原産国の地図もあると良い</li> </ul>	

10. ルーブリック

	評価規準	A	B	C
知識・技能	過去を表す言葉や産地を表す言葉を使っている。	過去を表す言葉や産地を表す言葉で正しく伝えている。	過去を表す言葉や産地を表す言葉で相手に伝わる程度に使っている。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	クラスメイトに世界と自分のつながりを分かりやすく伝えている。	自分の気持ちや感想を入れながら、自分が紹介したいものとその産地を入れて話している。	自分が紹介したいものとその産地を入れて話している。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	相手に伝わる工夫をして話そうとしている。	十分に相手に伝える工夫をして話そうとしている。	相手に伝える工夫をして話そうとしている。	Bを満たしていない。

#### 4. ②多度中学校公開授業について

### 中学校外国語科指導案

日 時：令和5年12月11日（月）第5校時

場 所：1年3組教室

生徒：1年 3組 34名

#### 1. 単元名 Unit 7 New Year Holidays in Japan

(Here We Go! 1 : 光村図書)

#### 2. 単元目標

- ・ALTにもっと自分のことを知ってもらうために、冬休みの思い出や感想を伝えるはがきを書くことができる。

#### 3. 単元設定の理由

##### (1) 単元について

本単元は、ティナとハジンとエリのそれぞれの年末年始の思い出話を軸に展開される。海外にルーツを持つハジンとティナが、日本のお正月の文化に感動する場面が多く描かれている。また、ティナは体調を崩し休んでいるコウタと祖父母に初詣での出来事や感想を伝えるメッセージを送る。

本単元では、過去の出来事やその感想を伝えるために必要な表現が取り上げられている。海外への日本からの留学生や日本に住む外国人の数も年々増加し、グローバル化が進む今、過去の出来事や感情を伝えるコミュニケーションの機会は今後増えることが十分に考えられる。また、その機会は直接的なものだけでなく、文面を通じて行われることも考えられる。

単元を通して、生徒には過去の出来事と感想を書いて伝えたり、その内容を読み取ったりする力を養いたい。また、ハジンやティナが日本の文化に驚いている内容などを通して、日本文化の素晴らしさに改めて気づける機会にしたい。

##### (2) 指導について

本単元では、単元ゴールの活動として、日本に来て間もないALTのジャスティン先生に、日本の冬休みを伝えることを通して、自分のことを知ってもらうために、英語ではがきを書く活動を行う。小学校で学んだ過去形を含む文も取り上げながら、過去形の使い方の理解を深め、表現の幅が広がるような言語活動を行っていく。

単元ゴールの達成に向けて、話すことで出来事を伝えた後に、その内容を書くことを

意識した活動を取り入れる。また、出来事を伝える際には、今まで意識をしてきた、場所や時間などの情報を含めて1文で詳しく情報を伝えることを意識していく。そして、出来事を伝えるだけでなく、その時の感想やその様子などを加えて、文と文のつながりを意識して言語活動を行うよう指導したい。

[生徒が書く英文の例] (下線部は、全員がめざす記述 (=b 評価))

Dear Justin,  
How are you? I enjoyed the winter vacation. I visited my grandparents in Gifu. We had a lot of snow there. So we made a snow man. I was happy.  
 One morning, I saw many Japanese traditional buildings in Shirakawago.  
They were so beautiful. I took nice pictures there. I want to show them to you. I want to go to Gifu again.  
How was your winter vacation? I look forward to seeing you.  
Best wishes,  
○○ ○○ Thank you.

#### 4. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書	過去形の使い方を理解し、過去のことやその感想について書く技能を身につけている。	ALT のジャスティン先生に自分のことを知ってもらうために、冬休みの思い出について、感想等の情報を加えて、はがきを書いている。	ALT のジャスティン先生に自分のことを知ってもらうために、冬休みの思い出について、感想等の情報を加えて、はがきを書こうとしている。

#### 5. 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 (第1学年)

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
/	/	/	/	[W-1] 自分のことや興味のあることについて、教科書や辞書などを参考にして、書くことができる。

6. 小学校外国語活動・外国語科を踏まえた指導の工夫

(1) 関連する活動

小学校外国語科では、世界と日本の夏休みの過ごし方を知り、自分の夏休みの思い出について、簡単な語句や基本的な表現を用いて互いに紹介し合うことを行っている。

このことを踏まえ、小学校で学んだことも取り上げながら、「冬休みの思い出を伝える」というゴールに向けて、さらに表現の幅を広げられるような言語活動を行っていく。

【Small Talk について】

多度中学校ブロックでは、小・中学校で Small Talk に取り組んでいる。小学校では、自分の身近な話題について、‘Really?’ や ‘I see.’ などを用いたり、相手の子が言ったことに対し、You で繰り返して話の内容を確かめたりするなどして、自分の考えや気持ちを伝え合うことを経験してきている。

中学校1年生では、小学校で経験してきたことを引き続き大切にしながら取り組むとともに、前置詞等を用いて自分の気持ちや考えをより詳しく述べることに取り組んでいる。

(2) 関連する言語材料

[NEW HORIZON Elementary 6]

Unit 4 I went to the mountains. I enjoyed camping. (一般動詞過去形)

Unit 4 It was great. (be 動詞過去形)

7. 単元指導計画 (全9時間)

時	目標◆・活動○【 】	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準〈評価方法〉
1	◆音声を聞いてストーリーのおおまかな内容を捉えることができる。 ◆Unit 7 Part 1 の本文の内容を捉え、新出表現について理解する。				記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。生徒の学習状況を記録に残さない活動においても、教師が生徒の学習状況を確認する。
	○ストーリーについて聞く。 ○本文を聞いたり、読んだりする。 ○本文についての必要な情報を読み取る。				
2	◆一般動詞の過去形の肯定文を使って、昨日の夕食について、聞いたり話し合ったりする。				
	○教科書のリスニングを行う。 ○昨日の夕食についてペアで話す。				
3	◆一般動詞の過去形の否定文や疑問文を使って、先週末の出来事について、聞いたり話し合ったりする。				
	○教科書のリスニングを行う。 ○先週末の出来事についてペアで話し、その				

	内容を書く。					<p>記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。生徒の学習状況を記録に残さない活動においても、教師が生徒の学習状況を確認する。</p>
4	◆Unit 7 Part 2 の本文の内容を捉え、新出表現について理解する。					
	○本文を聞いたり、読んだりする。 ○本文についての必要な情報を読み取る。					
5	◆Unit 7 Part 3 の本文の内容を捉え、新出表現について理解する。					
	○本文を聞いたり、読んだりする。 ○本文についての必要な情報を読み取る。					
6 本 時	◆be 動詞の過去形を使って、先週の出来事に状態や気持ちを加え話し合ったり、書いたりする。					
	○先週の出来事について、ペアで話したり、その内容をロイロノートで書く。					
7	◆Unit 7 Part4 の本文の内容を捉え、新出表現について理解する。					
	○本文を聞いたり、読んだりする。 ○本文についての必要な情報を読み取る。					
8	◆登場人物のはがきから出来事と感想を読み取る。 ◆冬休みの思い出について、はがきを書く内容を整理する。					
	○本文を読み、質問に答える。 ○自分の冬休みの出来事やそのときに感想を整理し、はがきを書く準備をする。					
9	◆ALT に宛てて自分の冬休みの思い出や感想を伝えるために、はがきを書くことができる。					
	○ALT に向けて、冬休みの出来事やその感想を伝えられるはがきを書く。	書	書	書	ALT に対して、冬休みの出来事と、その感想が伝わるように整理し、適切な表現を用いてはがきを書いている。	

8. 本時の指導 (6/9)

○目標 ◆be 動詞の過去形を使った話を聞いたり、それを使って話したり聞いたりする。

○本時の指導 (45分)

時間	生徒の活動	指導者の活動と使用英語例	準備物
10分	<p>1. 挨拶</p> <p>S: I' m ~. And you?</p> <p>2. Café talk (Small Talk)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたお題について、会話する (1分半)</li> <li>・中間指導「言いたかったけど言えなかったもの」の確認・共有を行う (5分)</li> <li>・決められたお題について、再度会話する (1分半)</li> </ul> <p>Topic : What do you want for Christmas?</p> <p>会話例 あいさつは省略</p> <p>S1 : What do you want for Christmas?</p> <p>S2 : I want Nintendo Switch.</p> <p>S1 : Oh. You want Nintendo Switch. I want it too. What video game do you want to play?</p> <p>S2 : I want to play ...</p>	<p>T: Good morning, everyone. How are you?</p> <p>T: I' m good.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を理解していることを示すために You で返すこと、1文で詳しく伝えることを意識させる。</li> <li>・自分たちで考えさせ、指導は最低限にする。</li> </ul>	スライド
3分	<p>3. Today' s Goal を知る</p> <p>「感情や状態を入れて、先週の出来事をよりよく伝えられる」</p>		

3分	4. 昨日の出来事についての教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来事とその感想を伝えるようにする。その際に新出単語も使用する。</li> </ul> <p>T: I ate ○○ yesterday. It was delicious.</p>	
5分	5. 教師からの質問に答える。  S: I ate ~.  S: Yes.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名当てる</li> </ul> <p>T: What did you eat yesterday?</p> <p>T: Was it delicious?</p> <p>T: Oh. It was delicious. Repeat after me.</p>	
5分	6. be 動詞過去形のルールに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・was.were が be 動詞の過去であること、主語に応じての使い分けに気づかせる。</li> </ul>	
7分	7. ペアになり週末の出来事とその感想をお互いに伝えあう。ペアを変えて、2回行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行う。</li> </ul>	
7分	8. ロイロノートで話した内容をカードにまとめて、提出する。		
5分	9. 提出されたカードを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で共有しながら、上手く使えているものを確認する。</li> </ul>	
3分	10. Today' s question と振り返りを行う 11. 挨拶		

## 10. ①Small Talk 指導上の共通事項（多度中学校ブロック）について

Small Talk 指導上の共通事項（多度中学校ブロック）

R6.1 作成

### ①Interactive Teacher Talk

#### ○話題の提供

- ①教師が自分について話すことでモデルを提示する。
- ②同じ話題のまま、教師が生徒にたずねて T-S インタラクションを行う。

### ②S-S Interaction 1

#### ○会話のスタートの表現を確認する。

※たずねる文によって、最初に提示する場合としない方がよい場合がある。

- ・原則、文字を示さず、口頭で練習をする。

#### ○取り組み状況の確認

- ・やり取りの様子を観察し、共有したい表現や言えていない表現を把握する。

### ③Sharing

#### ○英語で言えなかったことの共有

#### ○既習表現の想起

#### ○最初の質問や答え方の確認

- ・うまく言えない場合に、ターゲットの表現を提示する。

#### ○対話の継続

- ・対話を継続させるために必要な英語の使用を促したり、使用していた児童・生徒を紹介して広めたりする。〔反応の言葉、相手の発話を受け止めていることを示すため最後の単語を繰り返すこと（A:I went to Nagoya. B:Oh, Nagoya!）、関連した質問等〕

#### ○既習表現を活用した言い換え

- ・児童・生徒自身の言葉で表現できるようにする。

### ④S-S Interaction 2

#### ○変容の確認

- ・すぐにはできるようにならないということに留意し、長いスパンで指導し、見届けていくという意識をもつ。

### ⑤T-S Interaction（ふりかえり） ※⑤については、必要に応じて行う。

#### ○よい例の提示

- ・教師と子ども、もしくは子ども同士でよい例を示し、共有する。

学年	目指す姿	対話を続けるための表現	トピック	会話時間
小5	自分自身や家庭、学校等の身近な話題について、初歩的な対話を続けるための表現を用いながら、自分の考えや気持ち等について教師と英語で対話することができる。（前半） 自分自身や家庭、学校等の身近な話題について、対話を続けるための表現を用いながら、話し手の気持ちや考え等を聞き取り、自分の考えや気持ち等について、英語で対話することができる。（後半）	○対話を開始する。(Hello, / Hi,) ○反応する。(Oh. Really?/ Nice. 等) ○繰り返す。(Oh, Nagoya!) ○質問する。 ○対話を終了する。(Thank you!)	・ Do you like sushi? ・ Do you clean your house? ・ Can you cook well? ・ Can you play badminton? ・ Are you a good singer? ・ How do you spell your name? ・ When is your birthday? ・ What do you want for your birthday? ・ What do you want to be? ・ Where is ~? ・ What sport(color/fruit)do you like?	1 分 間
小6	自分自身や家庭、学校等の身近な話題について、対話を続ける表現を用いながら、話し手の気持ちや考え等を聞き取り、自分の考えや気持ち等について、英語で対話することができる。	○対話を開始する。(Hi. / Hello.) ○反応する。(Oh! Great. / Nice. 等) ○繰り返す。(You ~.) ○感想を言う。(It's delicious.) ○質問する。(Do you like ~?/ Why ~?) ○対話を終了する。(Thank you. / See you.)	・ Do you like sports? ・ Do you like traveling? ・ Did you enjoy sports day? ・ Did you enjoy your summer vacation? ・ When is your birthday? ・ Where do you live? ・ What is your treasure? ・ Where do you want to go? ・ What did you enjoy in the summer vacation? ・ What did you eat yesterday? ・ Who is your favorite singer? ・ What do you usually do on Sundays?	1 分 間
中1	・自分自身や家庭、学校等の身近な話題や日常的话题について、対話を続ける表現を用いながら、互いの気持ちや考え等について、英語で対話することができる。 ・聞き手を意識して感想を伝えたり、より詳しく述べたりすることができる。 ・言いたくても言えなかった表現について、自分なりに考え、次の対話に生かすことができる。（自分で主体的に学びたいと思う生徒へ） ・話したことについて英語で書くことができる。	○自然な挨拶で対話を開始する。 ○あいづちを打つ、反応を示す。(Great. /Really?/I see. / That's nice. / I didn't know that.) ○繰り返す。(You ~.) ○感想や考えを伝える。 ○質問をする。(How about you?/And you?/ What/Why/Who/Where~?/ 一般動詞、be動詞、Can の疑問文/ What kind of ~?) ○対話を終了する。	・ Which season do you like? ・ Who is your favorite singer? ・ What do you want for Christmas? ・ What is your favorite shop? ・ Who is your favorite person? ・ What do you want to eat now? ・ Which do you like better, rice or bread? ・ Which do you like better, cats or dogs? ・ Do you like playing sports? ・ Which do you want to live in, Japan or a foreign country? ・ What do you want to do next weekend? ・ Where do you want to go next weekend? ・ What did you do last weekend? ・ What did you eat for dinner yesterday?	1 分 間
中2	・自分自身や家庭、学校等の身近な話題や日常的话题、社会的な話題について、対話を続ける表現を用いながら、互いの気持ちや考え等について、英語で対話することができる。 ・言いたくても言えなかった表現について、自分なりに考え、次の対話に生かすことができる。（自分で主体的に学びたいと思う生徒へ） ・話したことについて英語で書くことができる。	○自然な挨拶で対話を開始する。 ○あいづちを打つ、反応を示す。(Great. /Really?/I see. / That's nice. / I didn't know that.) ○繰り返す。(You ~.) ○感想や考えを伝える。 ○褒める。(Sounds nice. / That's a wonderful idea) ○賛成する。(I think so too. / I know that too.) ○質問する。( How was it? / Do you	・ How was your spring vacation? ・ What do you want for Christmas? ・ When you're free, what do you do? ・ What are you going to do during the summer vacation? ・ What are you going to do next weekend? ・ If you had a dokodemo door, where would you want to go? ・ Who is your favorite artist? ・ Where do you want to live in the future? ・ What is your favorite food? ・ Which do you like better, playing sports or playing games? ・ If it's sunny tomorrow, what will you do?	1 分 間

		<p>think that~? / Why do you think so? / Which do you like, A or B? / What do you recommend? / What do you think? )</p> <p>○促す ( Please tell me more. )</p> <p>○対話を終了する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ If an earthquake happens, what should I do?</li> <li>・ What did you do on your work experience?</li> <li>・ Which do you like better, rice or bread?</li> <li>・ What subject do you like the best?</li> <li>・ What makes you happy?</li> </ul>	
中 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身や家庭、学校等の身近な話題や日常的な話題、社会的な話題について、対話を続ける表現を用いながら、互いの気持ちや考え等について、英語で対話することができる。</li> <li>・ 言いたくても言えなかった表現について、自分なりに考え、次の対話に生かすことができる。(自分で主体的に学びたいと思う生徒へ)</li> <li>・ 話したことについて英語で書くことができる。</li> </ul>	<p>○自然な挨拶で対話を開始する。</p> <p>○あいづちを打つ、反応を示す。</p> <p>○繰り返す。</p> <p>○感想や考えを伝える。( OK. You think ~. I also think . . . )</p> <p>○賛成する。( I agree / don't agree with you. )</p> <p>○薦める。( Why don't you~? )</p> <p>○質問する (Why do you think so? )</p> <p>○促す。( Please tell me more. / Tell me the reason. )</p> <p>○対話を終了する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ What is good about Tado JHS?</li> <li>・ Which day of the week do you like the best?</li> <li>・ Have you ever been to Hiroshima?</li> <li>・ Which do you want to live in , Okinawa or Hokkaido?</li> <li>・ What is your best memory of Tado JHS?</li> <li>・ What do you want for Christmas?</li> <li>・ If you had one million yen, what would you buy?</li> <li>・ Which (What) animation do you like?</li> <li>・ What did you do during the summer vacation?</li> <li>・ What do you want to do in the 2<sup>nd</sup> semester?</li> <li>・ Have you ever been abroad?</li> <li>・ How long do you study at home every day?</li> <li>・ What do you do to relax?</li> <li>・ What can we do to protect the environment?</li> <li>・ Which do you want to live in, Tokyo or Osaka?</li> <li>・ Which city do you want to go to, Tokyo or Osaka?</li> <li>・ Who is the person you admire most?</li> <li>・ Who is the person you want to meet?</li> <li>・ Did you buy something lately?</li> <li>・ If you had a time machine, what would you do?</li> <li>・ What do you want to try in high school?</li> <li>・ What do you want to do in the future?</li> </ul>	最低 1 分間

【令和5年度を取組を振り返って】

(小学校教員から)

- ・中学校の先生方と交流することを通して、そこから中学校の指導について多くのことを学びました。
- ・授業参観で、中学生がたくさん英語を話している姿を見て、小学校の学びが中学校でつながるように、児童が話す活動を増やしました。
- ・児童を「5・6年生」という枠でしか見れていませんでしたが、「中学校に進学する前の5・6年生」という目線で見れるようになりました。
- ・児童の変化としては、Small Talk に注力したことで、発表（スピーチ）の活動をしている時に、相手が話したことに対して、英語でより活発に反応を返すことができるようになりました。

(中学校教員から)

- ・以前よりもしっかりと小学校の教科書を見るようになりました。
- ・小学校の授業を参観したり、小学校の先生と情報交換したりしたことで、既習事項がよく分かりました。小学校から中学校で、どのような言語活動を通して学んでいるかを知ることで、中学校での指導に生かすことができました。
- ・小学校で Small Talk に力を入れてもらっていることが分かり、中学校で更に「話すこと（やり取り）」の技能を高めていこう、と思えるようになりました。
- ・小学校との交流がなければ、小学校で学んだ同じことを中学校でも新出事項として指導していたかもしれません。
- ・中学校でも Small Talk を重点的に取り組んだことにより、生徒の会話における発話数が増加しました。

【今後に向けて】

- ・令和5年度の多度中学校区を取組を桑名市全体に紹介することで、各中学校ブロックにおいて、小中一貫した視点から、更なる英語教育の推進を図りたいです。

以下は英語教育における「小中連携」、小中連携の前提となる「小中接続」のために「できること」リストです。すでに行っている項目の□にチェックを入れてみてください。チェックがつかなかった項目については、今後行うことを検討してみてください。

## 1. 小中接続：個人でできること

【小学校】	【中学校】
<input type="checkbox"/> 中学年用の Let's Try! 1, 2 の児童用教材や指導書（含デジタル教材）に目を通した。 <input type="checkbox"/> 高学年用の教科書や指導書（含デジタル教科書・デジタル教材）に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学1年生の教科書や指導書（含デジタル教科書）に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学2・3年生の教科書や指導書（含デジタル教科書）に目を通した。 <input type="checkbox"/> 中学校へのつながりを意識した授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> ALT に中学校の授業について聞いている。	<input type="checkbox"/> 小学校中学年用の Let's Try! 1, 2 の児童用教材や指導書（含デジタル教材）に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小学校高学年用の教科書や指導書（含デジタル教科書）に目を通した。 <input type="checkbox"/> Let's Try! 1, 2 と高学年用のデジタル教材を実際に操作し、英語の音声を聞いた。 <input type="checkbox"/> 小学校高学年用教科書の語彙表や付属の絵辞書に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小学校での学習をふまえた授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> ALT に小学校の授業について聞いている。
【共通】	
<input type="checkbox"/> 学習指導要領の「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表に目を通した。 <input type="checkbox"/> 小中の CAN-DO リストに目を通した。 <input type="checkbox"/> 単元ゴールを明確にした授業づくりをしている。 <input type="checkbox"/> 練習と言語活動のバランスを考えた授業づくりをしている。	

## 2. 小中連携：校区内でできること

【共通】
<input type="checkbox"/> 小・中学校の英語担当者が顔を合わせ、英語の授業について話す機会がある。 <input type="checkbox"/> お互いのテストや教材について、情報交換する機会がある。 <input type="checkbox"/> 4技能5領域について、小学校と中学校の到達目標を確認している。 <input type="checkbox"/> 小学校で使っている教室英語を中学校教員が知っている。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒のパフォーマンス動画を見せ合っている。 <input type="checkbox"/> 小学校で使用されている絵カード等教具や教材を中学校と共有している。 <input type="checkbox"/> 小学校で Picture Dictionary 等辞書を使っていた場合は、それを中学1年の初期に使用している。 <input type="checkbox"/> 小学校教員は中学校の、中学校教員は小学校の英語の授業を参観する機会がある。 <input type="checkbox"/> 中学校教員は、小学校で英語の授業をする機会がある。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒の英語交流行事を行っている。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒のオンライン英語交流を行っている。